

## 事務事業評価調書

事務事業名	こども発達支援センター施設管理事業				
担当部署	児童部	室課名	こども発達支援センター地域支援センター	室課長名	岸上 弘美

### 1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成19年度	改正内容	部名変更に伴う処務規定改正											
(2) 直近の改正	平成28年度													
(3) 根拠法令等	こども発達支援センター処務規程													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乗せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	03	健康で安心して暮らせるまちづくり	節	01	細節	32							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input type="checkbox"/> その他									
	範囲等	地域支援センター・杉の子学園(平成19年度～)わかたけ園(平成28年度から合築)の建物、敷地及び設備												
	目標 (どういう状態にしたいのか)	建物、敷地及び設備を適正に維持、管理します。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	施設や設備に起因した事故や故障をなくし、来場者が安心、安全に利用できるようにします。												
(7) 事業概要	建物、敷地及び設備の維持・管理にかかる委託業務、修繕、電気・ガス・水道の管理等を行います。													
(8) H28事業別 予算コード	会計	01	款	03	項	02	目	10	大	02	中	01	小	01
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)		平成29年度 (2017年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		21,642	21,047	27,069	20,038	122,595							
	人件費	職員数	2.00	2.00	1.90	1.90	0.90							
		総額(B)	16,704	16,078	15,523	15,010	7,247							
	総事業費(A+B)		38,346	37,125	42,592	35,048	129,842							
	特定財源(C)		168	168	0	0	0							
	(内訳)	国	0	0	0	0	0							
		府	0	0	0	0	0							
		その他	168	168	0	0	0							
	市負担(D)		38,178	36,957	42,592	35,048	129,842							
	(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
		その他	168	0	0	0	0							
一般財源		38,010	36,957	42,592	35,048	129,842								
財源計(C+D)		38,346	37,125	42,592	35,048	129,842								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input type="checkbox"/> 直接実施													
	<input checked="" type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	① 株式会社エイビック											
			② 大阪ガス											
	<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	③ 双葉化学商会											
			電気設備管理、空調設備管理、警備等											
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目		項目	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	
(1) 活動指標	① 指標内容 親子教室・わかたけ園・杉の子学園 利用 時児童数	目標値 (単位:件)	240.00	237.00	248.00	
		実績値 (単位:件)	237.00	235.00		
		達成度(%)	98.8	99.2		
	目標値 の積算 方法 親子教室・わかたけ園・杉の子学園 利用 可能人数	単位当た りコスト	総事業費(単位:千円)	156.65	151.32	
			一般財源(単位:千円)	155.94	151.32	
	② 指標内容	指標内容	目標値 (単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値 (単位:)			0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0		
目標値 の積算 方法		単位当た りコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
(2) 成果指標		① 指標内容 施設を適正に維持・管理し、施設の不具合 による事故を防ぐ。	目標値 (単位:件)	0.00	0.00	0.00
	実績値 (単位:件)		0.00	0.00		
	達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値 の積算 方法 事故件数	単位当た りコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
	② 指標内容	指標内容	目標値 (単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値 (単位:)			0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0		
目標値 の積算 方法		単位当た りコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
	一般財源(単位:千円)		0.00	0.00		
(3) が 困難な 場合 を示す	① 活動内容		目標			
	② 成果内容		達成 状況			
(4) 総合評価	今後の方向性 (実施計画)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 終期の設定				
	評価の説明	発達に支援を要する児童とその保護者を支援する拠点施設である地域支援センター・杉の子学園・わかたけ園においては、施設利用上、特に安心、安全の確保が必要であり、効率的な運用に努めます。				

事務事業分析シート

所属名	こども発達支援センター	事業名	施設管理事業	事業区分	内部管理
事務事業番号	00319				

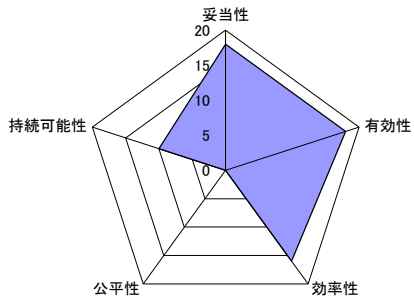
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	18	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討している。(3点)	3	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	0	①サービスの対象範囲は適正ですか。 内部管理		点
		②サービスの水準は適正ですか。 内部管理		点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 内部管理		点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 内部管理		点
(5) 持続可能性 (20点)	10	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。 c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	1	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができそうですか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	77	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	こども発達支援センター	事務事業番号	00319
-----	-------------	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他												
(2)各視点からの評価結果	 <p>The radar chart displays the following scores for each criterion:</p> <table border="1"> <tr><th>視点</th><th>評価結果</th></tr> <tr><td>妥当性</td><td>18</td></tr> <tr><td>有効性</td><td>15</td></tr> <tr><td>効率性</td><td>10</td></tr> <tr><td>公平性</td><td>5</td></tr> <tr><td>持続可能性</td><td>5</td></tr> </table>			視点	評価結果	妥当性	18	有効性	15	効率性	10	公平性	5	持続可能性	5
視点	評価結果														
妥当性	18														
有効性	15														
効率性	10														
公平性	5														
持続可能性	5														
(3)現状分析	<p>こども発達支援センターは築10年が経過し、毎年修繕を要する場所が出てきているため、利用者の安全にかかわる場所から計画的に修繕を行っていく必要があります。</p>														

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

## 事務事業評価調書

事務事業名	児童発達支援事業				
担当部名	児童部	室課名	こども発達支援センター地域支援センター	室課長名	岸上 弘美

### 1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	昭和46年度	改正 内容	わかたけ園移転に伴う条例改正											
(2) 直近の改正	平成28年度													
(3) 根拠法令等	児童福祉法・こども発達支援センター条例													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	03	健康で安心して暮らせるまちづくり	節	01	細節	32							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	範囲等	杉の子学園:主に知的障がい、または精神に障がいのある就学前の児童(発達障がいを含む) わかたけ園:主に上肢、下肢、または体幹機能に障がいのある就学前の児童												
	目標 (どういう状態にしたいのか)	個々の児童の発達課題に即した療育を行い、障がいのある児童の生活向上を目指します。また、保護者の負担・不安の軽減および進路選択を支援します。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	児童の発達が促進され、生活技術が向上します。また、保護者の負担・不安が軽減され、進路選択の支援により児童にとって望ましい進路の決定につながります。												
(7) 事業概要	<p>児童福祉法に基づき、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある就学前児童を対象に、個別支援計画を作成します。</li> <li>日常生活における基本的な動作やあそびの指導、自立に必要な知識や技術の向上、集団生活への適応のため、保育士・生活指導員・発達指導員・理学療法士・作業療法士 言語聴覚士と連携して、療育を行います。</li> <li>保護者に対し、相談や学習会等を通じて子育ての支援を行います。</li> <li>わかたけ園では親子通園による生活、あそび、機能訓練を通して療育を行います。</li> <li>杉の子学園では単独通園による小集団で、生活やあそびを通して療育を行います。</li> </ul>													
(8) H28事業別 予算コード	会計	01	款	03	項	02	目	10	大事業	03	中事業	01	小事業	01
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)		平成29年度 (2017年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		121,361	107,634	115,070	109,091	113,162							
	人件費	職員数	人	36.20	32.99	35.90	35.90	39.80						
		総額(B)	千円	302,343	265,207	293,303	283,610	320,470						
	総事業費(A+B)		423,704	372,841	408,373	392,701	433,632							
	特定財源(C)		9,798	165,225	9,995	9,995	9,299							
	(内訳)	国	0	0	0	0	0							
		府	0	0	0	0	0							
		その他	9,798	165,225	9,995	9,995	9,299							
	市負担(D)		413,906	207,616	398,378	382,706	424,333							
	(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
		その他	0	0	0	0	0							
一般財源		413,906	207,616	398,378	382,706	424,333								
財源計(C+D)		423,704	372,841	408,373	392,701	433,632								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容 杉の子学園園児数	目標値	(単位:人)	60.00	60.00	70.00	
			実績値	(単位:人)	70.00	70.00		
			達成度(%)		116.7	116.7		
	目標値の積算方法	定員	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		5,326.30	5,748.49	
				一般財源(単位:千円)		2,965.94	5,605.70	
	②	指標内容 わかたけ園園児数	目標値	(単位:人)	40.00	40.00	40.00	
実績値			(単位:人)	38.00	42.00			
達成度(%)			95.0	105.0				
目標値の積算方法		定員	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		9,811.61	9,580.81	
				一般財源(単位:千円)		5,463.58	9,342.83	
(2) 成果指標		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00		
	達成度(%)			0.0	0.0			
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
	一般財源(単位:千円)				0.00	0.00		
(3) が困難な場合を示す	①	活動内容				目標		
	②	成果内容	障がいの程度による差はあるが、それぞれの子どもに発達の伸びがみられました。			達成状況	子どもにとって適切な就園・就学指導ができ、継続的な療育を行うことができました。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		<p>杉の子学園・わかたけ園は開園以来、それぞれの児童の発達課題に即した療育を行い心身の発達を促すとともに、保護者への子育ての不安や負担に対する支援を行ってきました。</p> <p>杉の子学園では入園希望児童が年々増えており、平成29年度に定数を70名に拡充しました。さらに、知的障がい児と自閉スペクトラム障がい児の受け入れの拡大を検討すること及び、より専門性を高めることが課題であると考えています。</p> <p>わかたけ園では、従来医療機関で入院、療育を受けてきた0～1歳の児童が在宅での療育、介護に切り替わる傾向にあり、地域での早期療育の必要性が高くなっています。また、複合的な支援を要する家庭も多く、多様な専門性が求められています。</p>					

## 事務事業分析シート

所属名	こども発達支援センター	事業名	児童発達支援事業	事業区分	その他
事務事業番号	00320				

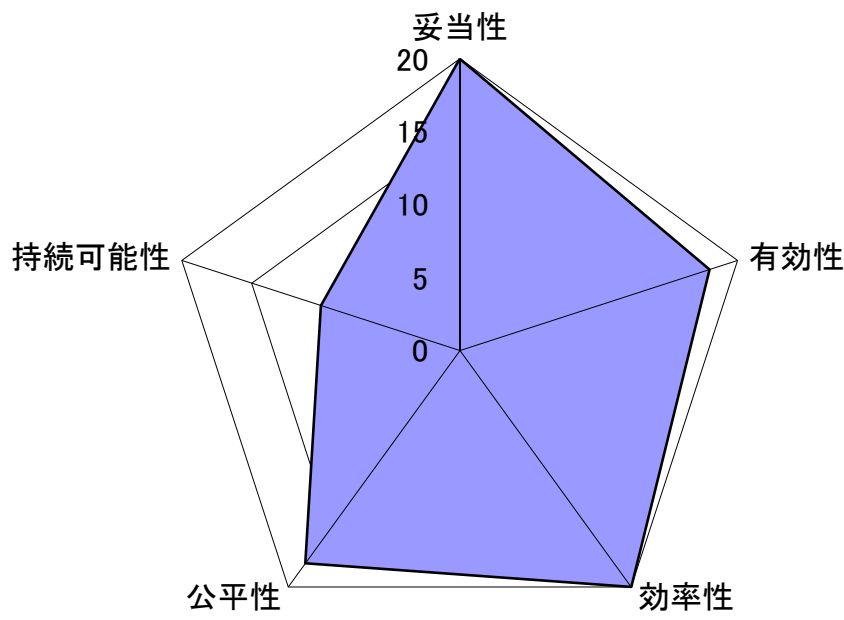
### 1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	20	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	10	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 c. 事業費、市負担とも大幅に増大している。(1点)	1	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	1	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	<b>86</b>	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	こども発達支援センター	事務事業番号	00320
-----	-------------	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input checked="" type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他												
(2)各視点からの評価結果	 <table border="1"> <caption>各視点からの評価結果 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>視点</th> <th>評価結果 (0-20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妥当性</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>持続可能性</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>			視点	評価結果 (0-20)	妥当性	18	有効性	15	効率性	10	公平性	5	持続可能性	5
視点	評価結果 (0-20)														
妥当性	18														
有効性	15														
効率性	10														
公平性	5														
持続可能性	5														
(3)現状分析	<p>障がいのある就学前児童に対し、個々の発達段階に応じて保育士・生活指導員が日々の療育を行っています。また、栄養士・看護師・発達指導員・理学療法士・言語聴覚士・作業療法士による専門相談や訓練を行うことで、心身ともに発達に合わせた成長の促進に寄与していますが、障がいの多様化と医療的ケア児が増加していることで、より高い専門性が求められるようになっていきます。</p> <p>さらに、子育てをとりまく社会の多様化に伴い、保護者に対する育児力向上の支援だけでなく、就労に対する支援ニーズも増加しています。</p>														

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)



## 事務事業評価調書

事務事業名	児童福祉サービス給付事業				
担当部名	児童部	室課名	こども発達支援センター地域支援センター	室課長名	岸上 弘美

### 1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成24年度	改正内容	児童福祉法改正											
(2)	直近の改正	平成24年度													
(3)	根拠法令等	児童福祉法													
(4)	市単独事業区分	<input type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input checked="" type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	03	健康で安心して暮らせるまちづくり	節	01	細節	32							
(6)	目的	対象(誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	市内に在住する障がいのある児童とその保護者												
		目標(どういう状態にしたいのか)	①障がいのある児童の通所支援にかかる支給決定を行うことにより、事業所の利用ができるようになります。 ②事業所からの請求を審査し、給付費の支払いを行うことで事業所の運営経費となります。												
	結果(どのような効果が得られるのか)	事業所の安定した運営により、障がい児への継続的な療育が行えるようになります。													
(7)	事業概要	①平成24年度から児童福祉法の改正により法定事務として府から市へ事務移管されたことに伴い、障がいのある児童に通所支援にかかる支給決定事務を行います。 ②①と同様の経緯による法定事務にて、毎月各事業所からの給付費の請求にかかる内容を審査し、国保連合会を通して各事業所に支払います。													
(8)	H28事業別予算コード	会計	01	款	03	項	02	目	10	大事業	04	中事業	01	小事業	01
(9)	事業費と財源の内訳	項目		平成27年度(2015年度)		平成28年度(2016年度)		平成29年度(2017年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		580,272	755,116	834,996	983,156	1,261,006							
		人件費	職員数	人	0.80	0.80	0.80	0.80	0.20						
			総額(B)	千円	6,682	6,432	6,536	6,320	1,611						
		総事業費(A+B)		586,954	761,548	841,532	989,476	1,262,617							
		特定財源(C)		434,516	570,349	625,431	752,600	944,469							
		(内訳)	国	288,744	381,935	416,021	502,829	628,713							
			府	145,772	188,414	209,410	249,771	315,756							
			その他	0	0	0	0	0							
		市負担(D)		152,438	191,199	216,101	236,876	318,148							
		(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
			その他	0	0	0	0	0							
一般財源	152,438		191,199	216,101	236,876	318,148									
財源計(C+D)		586,954	761,548	841,532	989,476	1,262,617									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input type="checkbox"/> 直接実施													
		<input checked="" type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①	大阪府国民健康保険団体連合会										
				②											
				③											
		<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①											
②															
③															
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	障がい児通所支援サービス利用件数	目標値	(単位:件)	64,920.00	66,120.00	67,320.00
			実績値	(単位:件)	77,242.00	99,349.00	/	
		達成度(%)			119.0	150.3		
	目標値の積算方法	第4期吹田市障がい福祉計画の月当たり利用量見込み×12月	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		9.86		9.96
				一般財源(単位:千円)		2.48	2.39	
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値				(単位:)	0.00	0.00	/	
達成度(%)				0.0	0.0			
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00		0.00
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
(3) が 困難な場合を示す		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00	/	
	達成度(%)			0.0	0.0			
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00		0.00
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00	/		
達成度(%)			0.0	0.0				
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00		0.00	
			一般財源(単位:千円)		0.00	0.00		
①	活動内容					目標		
	②	成果内容	福祉サービスを必要とする障がい児へ、ニーズに沿った適切な給付を行うことにより、安定した障がい児通所支援サービスの供給が行えました。				達成状況	障がい児の地域での生活充足度を高めることができました。
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		当該事業は法定業務であり利用ニーズも高く、障がい児の福祉の向上に寄与する重要な事業であるため、引き続き実施していきます。					

## 事務事業分析シート

所属名	こども発達支援センター	事業名	児童福祉サービス給付事業	事業区分	その他
事務事業番号	00321				

### 1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。		
		a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。		
		a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。		
a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点		
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。		
a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点		
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。		
		b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。		
		a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。		
a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点		
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。		
a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点		
(3) 効率性 (20点)	20	①単位当たりコストは適正ですか。		
		a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。		
		a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。		
a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点		
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。		
a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点		
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。		
		b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。		
		a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。		
a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点		
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。		
a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点		
(5) 持続可能性 (20点)	10	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。		
		c. 事業費、市負担とも大幅に増大している。(1点)	1	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。		
		c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	1	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。		
a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点		
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。		
b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点		
評価点合計 (100点満点)	<b>86</b>	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	こども発達支援センター	事務事業番号	00321
-----	-------------	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

新規参入する事業所が今後も増加するなかで、事業費は増加傾向にあります。

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果	<p>The radar chart displays the following scores for each dimension: 妥当性 (20), 有効性 (15), 効率性 (10), 公平性 (5), and 持続可能性 (5). The scale ranges from 0 to 20.</p>		
(3)現状分析	<p>平成24年度より新たに加わった事業であり、法に定める支給決定業務については、今後の利用件数の推移を見ながら人員体制等を整備していく必要があります。児童発達支援・放課後等デイサービスともに児童・保護者にとってニーズの高い福祉サービスであり、利用件数は今後も増加すると見込んでいます。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

## 事務事業評価調書

事務事業名	安全対策事業(こども発達支援センター)				
担当部名	児童部	室課名	こども発達支援センター地域支援センター	室課長名	岸上 弘美

### 1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成17年度	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等														
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	03	健康で安心して暮らせるまちづくり	節	01	細節	32							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	杉の子学園・わかたけ園園児等施設利用者												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	安全管理員を配置し、不審者の監視等を行うことにより、園児等施設利用者の安全を確保します。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	園児等の安全面の向上を図ります。													
(7)	事業概要	園の安全管理確保と円滑な運営を目的とし、外部からの不審者の侵入を防ぐため安全管理員を配置します。													
(8)	H28事業別 予算コード	会計	01	款	03	項	02	目	10	大事業	05	中事業	01	小事業	01
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)		平成29年度 (2017年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		2,334	2,290	1,260	1,233	1,262							
		人件費	職員数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10						
			総額(B)	千円	836	804	817	790	806						
		総事業費(A+B)		3,170	3,094	2,077	2,023	2,068							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		3,170	3,094	2,077	2,023	2,068							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			3,170	3,094	2,077	2,023	2,068								
財源計(C+D)		3,170	3,094	2,077	2,023	2,068									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input type="checkbox"/> 直接実施													
		<input checked="" type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①	公益社団法人 吹田市シルバー人材センター										
				②											
				③											
		<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①											
②															
③															
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 安全管理員配置施設数	目標値	(単位:園)	2.00	1.00	1.00
			実績値	(単位:園)	2.00	1.00	
			達成度(%)		100.0	100.0	
	目標値の積算方法	安全管理員配置施設数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	1,547.00	2,050.00	
				一般財源(単位:千円)	1,547.00	2,050.00	
	(2) 成果指標	②	指標内容 不審者の侵入等を未然に防ぎ、園児等施設利用者の安全を確保します。	目標値	(単位:件)	0.00	0.00
実績値				(単位:件)	0.00	0.00	
達成度(%)				0.0	0.0		
目標値の積算方法		不審者の侵入を防ぎます。	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
(3) 困難な場合		①	指標内容 不審者の侵入等の件数	目標値	(単位:件)	0.00	0.00
	実績値			(単位:件)	0.00	0.00	
	達成度(%)			0.0	0.0		
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
①	活動内容				目標		
	②	成果内容				達成状況	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		安全管理員を配置することで、不審者に対する抑止力となり、障がいのある児童の命を守る重要な対策であるとともに、保護者からも継続を強く要望されていることから、今後も事業を実施していきます。平成28年度に杉の子学園とわかたけ園を合築したため、配置施設数が1園に減少しました。				

## 事務事業分析シート

所属名	こども発達支援センター	事業名	安全対策事業(こども発達支援センター)	事業区分	その他
事務事業番号	00322				

### 1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

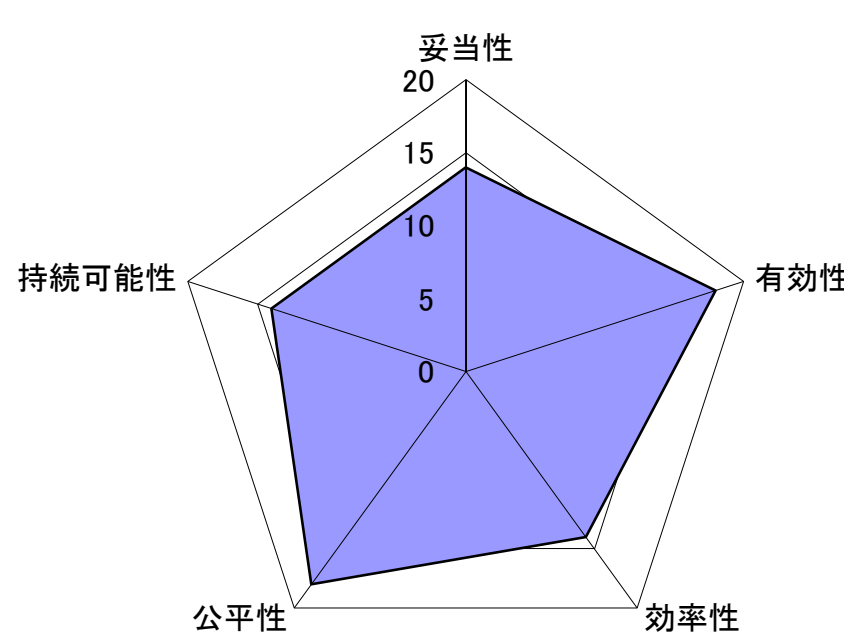
評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	14	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 b. 市が関与すべき事業であるが、その範囲や担い手には民間委託など検討の余地がある。(3点)	3	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	14	①単位当たりコストは適正ですか。 b. 単位当たりコストは概ね適正であるが、改善の余地がある。(3点)	3	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	14	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	78	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		



所属名	こども発達支援センター	事務事業番号	00322
-----	-------------	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>安全管理員を配置し、不審者に対する抑止力となっています。          なお、今後の事業のあり方について、市内公立保育所で実施している地域住民によるボランティアの防犯警備協力員の活用についても検討する必要がありますが、地域の防犯警備協力員のみでは常時監視する人員を確保することが困難であると想定されるため、保護者が安心して子どもを預けられるよう、今後も安全管理員の配置は必要であると考えます。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)



## 事務事業評価調書

事務事業名	相談支援事業				
担当部名	児童部	室課名	こども発達支援センター地域支援センター	室課長名	岸上 弘美

### 1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成26年度	改正内容	なし					
(2)	直近の改正	なし							
(3)	根拠法令等	児童福祉法・障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障がい者総合支援法)							
(4)	市単独事業区分	<input type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input checked="" type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)					
		一部にチェックした場合はその説明							
(5)	総合計画の体系	章 03	健康で安心して暮らせるまちづくり	節 01	細節 32				
(6)	目的	対象(誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他			
		範囲等	主に障がい児通所支援の利用を希望する児童及び障がい福祉サービスの利用を希望する児童						
		目標(どういう状態にしたいのか)	障がい児支援利用計画の作成、サービス事業者等との連絡調整、サービス利用中のモニタリングを行うことで、適切な福祉サービスの利用を促進します。						
		結果(どのような効果が得られるのか)	適切なサービスの提供を構築することで、障がい児の地域での生活が充実します。						
(7)	事業概要	主に障がい児通所支援利用希望児童について障がい児支援利用計画の作成、サービス事業者等との連絡調整、利用状況のモニタリングを行います。法定「児童発達支援センター」の構成事業の一つであり、同センターとして事業所指定を受けていることから、児童発達支援事業及び保育所等訪問支援事業と合わせて、一体的に運営する必要があります。							
(8)	H28事業別予算コード	会計 01	款 03	項 02	目 10	大事業 03	中事業 02	小事業 01	
(9)	事業費と財源の内訳	項目		平成27年度(2015年度)		平成28年度(2016年度)		平成29年度(2017年度)	
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)	
		事業費(A)		42	23	57	31	57	
		人件費	職員数	人	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
			総額(B)	千円	6,682	6,432	6,536	6,320	6,442
		総事業費(A+B)		6,724	6,455	6,593	6,351	6,499	
		特定財源(C)		0	0	0	0	0	
		(内訳)	国	0	0	0	0	0	
			府	0	0	0	0	0	
			その他	0	0	0	0	0	
		市負担(D)		6,724	6,455	6,593	6,351	6,499	
		(内訳)	地方債	0	0	0	0	0	
			その他	0	0	0	0	0	
			一般財源	6,724	6,455	6,593	6,351	6,499	
財源計(C+D)		6,724	6,455	6,593	6,351	6,499			
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施							
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①					
				②					
				③					
		主な委託内容							
		<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①					
②									
③									
<input type="checkbox"/> その他	内容								

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 新規ケース計画案作成件数	目標値	(単位:件)	80.00	20.00	/
			実績値	(単位:件)	110.00	24.00	
			達成度(%)		137.5	120.0	
	目標値の積算方法 杉の子学園通園児50名(～平成27年度) わかたけ園通園児30名(～平成27年度) 新入園児20名(平成28年度～)	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	58.68	273.63		
			一般財源(単位:千円)	58.68	273.63		
	②	指標内容 既担当ケースモニタリング件数	目標値	(単位:件)	80.00	100.00	
実績値			(単位:件)	40.00	144.00		
達成度(%)			50.0	144.0			
目標値の積算方法 杉の子学園とわかたけ園の在園児	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	161.38	45.60			
		一般財源(単位:千円)	161.38	45.60			
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
			達成度(%)		0.0	0.0	
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) が 困難な場合を示す	①	活動内容				目標	
	②	成果内容	障がい児支援利用計画の作成やサービス利用中のモニタリングを行うことで、障がい児の抱える課題の解決や、適切な福祉サービスの利用を促進しました。			達成状況	障がい児の地域での生活充足度を高めることができました。
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		<p>児童発達支援センターの構成事業として、今後も継続して行っていく必要があります。業務に従事するためには、障がい関連の相談業務または同関連の介護や保育業務等に一定期間従事した経験を持つ資格者が専門の研修を受講する必要があるため、業務を継続するためには、前述の障がい関連業務従事経験者の確保が必須となります。</p> <p>担当したケースに対し、一定期間毎にモニタリングを行わなければなりません、全国的に本事業にかかる民間事業所の参入が遅れており、直近に事業所数が拡充される見込みもなく制度の利用にかかる受け皿が不足していることから、今後の新規相談ケースに迅速に対応するため、人員体制の強化について検討する必要があります。</p>				

## 事務事業分析シート

所属名	こども発達支援センター	事業名	相談支援事業	事業区分	その他
事務事業番号	00323				

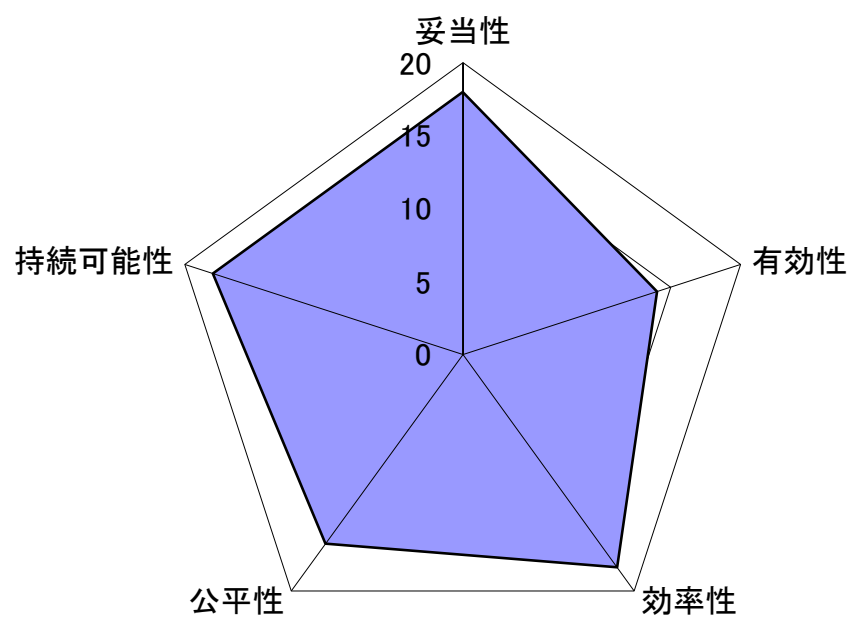
### 1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	18	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 b. 市が関与すべき事業であるが、その範囲や担い手には民間委託など検討の余地がある。(3点)	3	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	14	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 b. 目標を下回る進捗状況である。(3点)	3	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 b. 目標をやや下回るが、具体的な成果を上げている。(3点)	3	点
(3) 効率性 (20点)	18	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	16	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 b. サービスの水準は高く、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	<b>84</b>	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	こども発達支援センター	事務事業番号	00323
-----	-------------	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他												
(2)各視点からの評価結果	 <table border="1"> <caption>各視点からの評価結果 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>視点</th> <th>評価結果 (0-20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妥当性</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>持続可能性</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>			視点	評価結果 (0-20)	妥当性	18	有効性	12	効率性	10	公平性	5	持続可能性	15
視点	評価結果 (0-20)														
妥当性	18														
有効性	12														
効率性	10														
公平性	5														
持続可能性	15														
(3)現状分析	<p>児童福祉法に基づく通所サービス(児童発達支援・放課後等デイサービス)の利用件数が増加しているなかで、本制度の事業拡充(新規事業所の参入)が全国的にも進んでおらず、本市においても新規相談件数が増加する傾向にある中で、本来発揮すべき利用調整業務に支障をきたしています。</p>														

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

## 事務事業評価調書

事務事業名	通園療育支援事業				
担当部署	児童部	室課名	こども発達支援センター地域支援センター	室課長名	岸上 弘美

### 1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成4年	改正内容	吹田市肢体不自由児通園施設長期欠席児対策事業助成金交付要綱法改正による用語の整理・助成金額の改定											
(2) 直近の改正	平成24年													
(3) 根拠法令等	吹田市立わかたけ園長期欠席児療育介助制度に関する要領 他													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	03	健康で安心して暮らせるまちづくり	節	01	細節	32							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	範囲等	わかたけ園を利用(通園・外来)する児童および 他の肢体不自由児の通園施設に通園する児童												
	目標 (どういう状態にしたいのか)	通園療育を円滑に行い、成果の定着を図ります。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	療育成果の向上・定着												
(7) 事業概要	①保護者の病気・出産等の理由による長期欠席防止を目的とする療育介助(わかたけ園の臨時雇用員・他施設への助成金) ②単独通園(就学前プログラムとしての他人介助での通園) ③外来保育(通園の準備段階・訓練の補助および通園に至らない親子の支援)													
(8) H28事業別予算コード	会計	01	款	03	項	02	目	10	大事業	07	中事業	01	小事業	01
(9) 事業費と財源の内訳	項目		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)		平成29年度 (2017年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		4,689	5,763	6,681	4,171	6,640							
	人件費	職員数	0.80	0.80	0.30	0.30	0.20							
		総額(B)	6,682	6,432	2,451	2,370	1,611							
	総事業費(A+B)		11,371	12,195	9,132	6,541	8,251							
	(内訳)	特定財源(C)		19	20	26	10	21						
		国		0	0	0	0	0						
		府		0	0	0	0	0						
		その他		19	20	26	10	21						
	(内訳)	市負担(D)		11,352	12,175	9,106	6,531	8,230						
		地方債		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0						
		一般財源		11,352	12,175	9,106	6,531	8,230						
財源計(C+D)		11,371	12,195	9,132	6,541	8,251								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①	恩賜財団大阪府済生会吹田療育園										
②														
③														
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 長期欠席児対策事業 利用人数	目標値	(単位:人)	6.00	6.00	5.00
			実績値	(単位:人)	9.00	4.00	/
		達成度(%)		150.0	66.7		
	目標値 の積算 方法	実績に基づく出産等による長期欠席該当者の想定人数	単位当たり コスト	総事業費(単位:千円)	1,355.00	1,655.50	
			一般財源(単位:千円)	1,352.78	1,653.00		
	②	指標内容 外来保育実施回数	目標値	(単位:回)	100.00	60.00	60.00
実績値			(単位:回)	92.00	61.00	/	
達成度(%)			92.0	101.7			
目標値 の積算 方法		外来保育(個別)+外来保育(グループ)	単位当たり コスト	総事業費(単位:千円)	132.55		108.56
			一般財源(単位:千円)	132.34	108.39		
(2) 成果指標		①	指標内容 長期欠席対策事業 実施期間中の登園率	目標値	(単位:%)	60.00	60.00
	実績値			(単位:%)	67.00	54.00	/
	達成度(%)		111.7	90.0			
	目標値 の積算 方法	園児の平均登園率(概算)	単位当たり コスト	総事業費(単位:千円)	182.01	122.63	
			一般財源(単位:千円)	181.72	122.44		
	②	指標内容 外来保育 参加延人数	目標値	(単位:人)	200.00	200.00	200.00
			実績値	(単位:人)	300.00	224.00	/
			達成度(%)		150.0	112.0	
		目標値 の積算 方法	外来保育(個別) 外来保育(グループ)	単位当たり コスト	総事業費(単位:千円)	40.65	
	一般財源(単位:千円)			40.58	29.52		
(3) が困難な場合を示す	①	活動内容				目標	
	②	成果内容				達成状況	
(4) 総合評価	今後の方向性 (実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		<p>通園療育を補完し円滑に実施して、効果を定着させるために3つの事業を実施しています。こども発達支援センターの通園療育の充実に合わせて、より効果的な事業展開を検討する必要があります。</p> <p>わかたけ園に在園する児童は、障がい重い・医療的ケアを要する等の事情があり、年齢に比して親子の密着度が高い傾向にあり、児童の心身の成長に時間がかかる場合が多いため、5歳児の単独通園日数を増やす等の効果的な就学前プログラムを検討する必要があります。</p>				

## 事務事業分析シート

所属名	こども発達支援センター	事業名	通園療育支援事業	事業区分	その他
事務事業番号	00324				

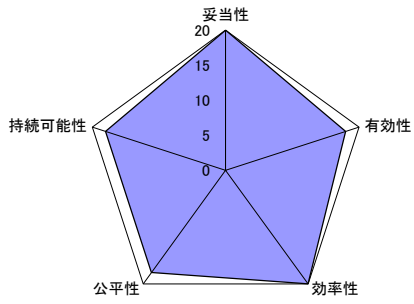
### 1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	20	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができそうですか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	<b>94</b>	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	こども発達支援センター	事務事業番号	00324
-----	-------------	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>通園療育を補完し円滑に実施するために効果を上げています。          単独通園事業については、就学前プログラムとして実施しており、一定の効果をあげていますが、わかたけ園在籍の児童は障がいが重い・医療的ケアを要する事情があり、年齢に比して親子の密着度が高く、児童の成長にも時間がかかる場合が多いため、事業の日数を増やす等効果的な就学前プログラムとなるように検討が必要と考えます。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)



## 事務事業評価調書

事務事業名	地域療育事業				
担当部署	児童部	室課名	こども発達支援センター地域支援センター	室課長名	岸上 弘美

### 1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成19年度	改正内容	わかたけ園移転に伴う条例改正											
(2) 直近の改正	平成28年度													
(3) 根拠法令等	児童福祉法・こども発達支援センター条例													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	03	健康で安心して暮らせるまちづくり	節	01	細節	32							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他	0歳から18歳までの、おもに通園療育を受けていない発達に支援を要する児童及び保護者。また、その児童や保護者を支援する地域の市民。								
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	児童の発達課題に即した療育を行い、全面的な心身の発達を促します。保護者への支援と共に在籍機関との連携を通して地域での支援を図ります。また、障がい児に対する市民への啓発をととして、理解の促進を図ります。											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	障がいの軽減が図られ、児童の生活の質が向上するとともに、保護者の負担が軽減されます。また、市民による地域での支援によって安心して生活ができます。												
(7) 事業概要	<p>「吹田市の療育システムの充実について」の基本方針に基づき、障がい児施設、支援学校、市民病院、保健所等、福祉・教育・医療等の関係機関と連携を図りシステムを推進する中で、主に次の取り組みを行います。</p> <p>①障がいのある児童と保護者を対象とした各種親子教室、②一般相談、発達相談、各種専門相談③理学・言語・作業療法、④在籍機関での巡回相談⑤私立幼稚園への施設支援、⑥発達障がいや放課後休日の支援を行う教室。また、市民を対象に、⑦地域福祉講座の開催、⑧ボランティア活動の支援。</p>													
(8) H28事業別予算コード	会計	01	款	03	項	02	目	10	大事業	06	中事業	01	小事業	01
(9) 事業費と財源の内訳	項目		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)		平成29年度 (2017年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		37,096	31,767	51,938	44,698	53,174							
	人件費	職員数	7.30	8.30	11.70	11.70	13.60							
		総額(B)	千円	60,970	66,724	95,589	92,430	109,508						
	総事業費(A+B)		98,066	98,491	147,527	137,128	162,682							
	特定財源(C)		5,946	6,531	4,363	4,363	6,862							
	(内訳)	国	864	1,485	0	0	1,267							
		府	4,032	4,561	3,600	3,600	4,812							
		その他	1,050	485	763	763	783							
	市負担(D)		92,120	91,960	143,164	132,765	155,820							
	(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
		その他	0	0	0	0	0							
一般財源		92,120	91,960	143,164	132,765	155,820								
財源計(C+D)		98,066	98,491	147,527	137,128	162,682								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他	内容													

## 2 評価の指標等

指標項目			項目		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)
(1) 活動指標	①	各種療法利用件数	目標値	(単位:件)	4,872.00	5,000.00	5,132.00
			実績値	(単位:件)	3,244.00	3,491.00	
			達成度(%)		66.6	69.8	
	目標値の積算方法	相談の内容から訓練が必要と判断した件数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	30.36	40.19	
				一般財源(単位:千円)	28.35	38.94	
	②	発達相談・療育相談実施件数	目標値	(単位:人)	793.00	815.00	886.00
			実績値	(単位:人)	621.00	673.00	
			達成度(%)		78.3	82.6	
	目標値の積算方法	相談申請者数(待機も含む)	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	158.60	208.45	
				一般財源(単位:千円)	148.08	201.97	
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
			達成度(%)		0.0	0.0	
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
			達成度(%)		0.0	0.0	
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
(3) が困難な場合を示す	①	活動内容		目標			
	②	成果内容	児童の障がいの軽減が図られ、生活の質が向上し、保護者の負担が軽減されます。また、児童が所属する機関との連携や、市民による地域での支援によって、安心して生活できます。	達成状況	実施により児童の障がいの軽減や生活の質の向上が見られますが、体制上の問題により、全ての希望者への提供はできていない。		
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		わかたけ園移転整備により、専門職を地域支援センターに集約し体制整備を行い、通園療育の訓練の充実を図りました。また平成29年度に言語聴覚士、作業療法士の増員を行うことで、外来相談訓練の待機期間の解消を図ります。今後はさらに、増加傾向にある発達に課題のある児童への支援の充実を図り、必要な時に必要な療育が受けられるよう、平成28年度に統合した1歳6か月児健康診査事後指導事業(パンプキ親子教室)と連携しながら、親子教室についても体制整備を検討していく必要があると考えています。				

事務事業分析シート

所属名	子ども発達支援事業	事業名	地域療育事業	事業区分	その他
事務事業番号	00325				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	14	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 b. 目標を下回る進捗状況である。(3点)	3	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 b. 目標をやや下回るが、具体的な成果を上げている。(3点)	3	点
(3) 効率性 (20点)	18	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 b. 迅速なサービス提供のための取組について検討している。(3点)	3	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	10	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 c. 事業費、市負担とも大幅に増大している。(1点)	1	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。 c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	1	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができませんか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	80	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	こども発達支援事業	事務事業番号	00325
-----	-----------	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input checked="" type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果	<div style="text-align: center;"> <p>妥当性: 20 有効性: 15 効率性: 10 公平性: 5 持続可能性: 5</p> </div>		
(3)現状分析	<p>支援の必要な児童の増加に伴い、現在の親子教室では定員等が十分ではなく、必要な児童がまだ受け入れられていない状況があります。          平成28年度にわかたけ園の専門職や1歳6か月児健診事後指導事業(バンビ親子教室)を統合し、平成29年度には言語聴覚士、作業療法士の増員と高野台出張バンビ親子教室を開室する予定となっています。          今後はさらに、さまざまな支援を必要とする児童が必要な時に必要な支援を受けられるよう、関係機関との連携のもと、システムの推進や親子教室の拡充等の体制整備が必要と考えています。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

## 事務事業評価調書

事務事業名	保育所等訪問支援事業				
担当部名	児童部	室課名	こども発達支援センター地域支援センター	室課長名	岸上 弘美

### 1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成27年度	改正内容	なし											
(2) 直近の改正	なし													
(3) 根拠法令等	児童福祉法													
(4) 市単独事業区分	<input type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input checked="" type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	03 健康で安心して暮らせるまちづくり	節	01	細節	32								
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	範囲等	保育所や、児童が集団生活を営む施設に通う障がい児												
	目標 (どういう状態にしたいのか)	障がい児が保育所等の集団生活に適應できるように支援します。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	保育所等に在籍している障がい児、又は今後利用する予定の障がい児が、保育所等における集団生活適應のための専門的な支援を必要とする場合に、安定した利用の促進を図ります。												
(7) 事業概要	保育所や幼稚園、学校等、障がい児が集団生活を行う場に専門職を派遣し、当該児童に対し直接療育を行うほか、当該児童に関わるスタッフに対しても助言・指導を行います。法定「児童発達支援センター」の構成事業の一つであり、児童発達支援事業及び相談支援事業と合わせて一体的に運営する必要があります。													
(8) H28事業別 予算コード	会計	01	款	03	項	02	目	10	大事業	03	中事業	03	小事業	01
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)		平成29年度 (2017年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		28	0	16	0	16							
	人件費	職員数	人	0.80	0.00	0.20	0.20	0.10						
		総額(B)	千円	6,682	0	1,634	1,580	806						
	総事業費(A+B)		6,710	0	1,650	1,580	822							
	特定財源(C)		211	0	0	0	0							
	(内訳)	国		105	0	0	0	0						
		府		53	0	0	0	0						
		その他		53	0	0	0	0						
	市負担(D)		6,499	0	1,650	1,580	822							
	(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0						
一般財源		6,499	0	1,650	1,580	822								
財源計(C+D)		6,710	0	1,650	1,580	822								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)
(1) 活動指標	①	指標内容	訪問支援件数	目標値 (単位:件)	10.00	10.00	/
			実績値 (単位:件)	0.00	0.00		
		達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法	訪問支援必要件数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値 (単位:)	0.00	0.00	
実績値 (単位:)				0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
(3) が困難な場合		①	指標内容	目標値 (単位:)	0.00	0.00	/
	実績値 (単位:)			0.00	0.00		
	達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
	②	指標内容	目標値 (単位:)	0.00	0.00	/	
実績値 (単位:)			0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0				
①	活動内容				目標		
		②	成果内容	保育所等における集団生活適応のための専門的な支援を必要とする場合に本サービスを提供し、安定した利用を促進します。			達成状況
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)			<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止
	評価の説明		児童福祉法に定める、法定児童発達支援センターにおける必置事業であり、本市で実施している巡回相談事業の対象とならない児童を対象として開始しましたが、利用希望はありませんでした。				

# 事務事業分析シート

所属名	こども発達支援センター	事業名	保育所等訪問支援事業	事業区分	その他
事務事業番号	01427				

## 1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	16	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 c. 市民ニーズは低下している。又は市民ニーズを把握できていない(1点)	1	点
(2) 有効性 (20点)	12	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 b. 目標を下回る進捗状況である。(3点)	3	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 c. 具体的な成果があまりない状況である。(1点)	1	点
(3) 効率性 (20点)	14	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 b. 迅速なサービス提供のための取組について検討している。(3点)	3	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	14	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	74	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	こども発達支援センター	事務事業番号	01427
-----	-------------	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他												
(2)各視点からの評価結果	<table border="1"> <caption>各視点からの評価結果 (Radar Chart Data)</caption> <thead> <tr> <th>視点</th> <th>評価結果 (点数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妥当性</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>持続可能性</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>			視点	評価結果 (点数)	妥当性	15	有効性	10	効率性	10	公平性	10	持続可能性	10
視点	評価結果 (点数)														
妥当性	15														
有効性	10														
効率性	10														
公平性	10														
持続可能性	10														
(3)現状分析	<p>児童福祉法に定める、法定児童発達支援センターにおける必置事業ですが、本市が実施している巡回相談事業において保育園や幼稚園、放課後こども育成課に専門職を派遣し、対象児童に関わるスタッフや保護者に対して助言指導を行っているため、本事業に対する利用ニーズは少ない状況です。</p>														

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)



## 事務事業評価調書

事務事業名	1歳6か月児健康診査事後指導事業				
担当部名	児童部	室課名	こども発達支援センター地域支援センター	室課長名	岸上 弘美

### 1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	昭和62年度	改正内容	部名の変更											
(2) 直近の改正	平成28年度													
(3) 根拠法令等	母子保健法、1歳6か月児健康診査事後指導事業(パンビ親子教室)実施要領													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	03	健康で安心して暮らせるまちづくり	節	01	細節	32							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	範囲等	1歳6か月児健康診査において事後指導が必要とされた幼児及びその保護者												
	目標 (どういう状態にしたいのか)	早期の親子療育による課題の軽減及び解消への援助												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	子どもの発達の促進と問題の軽減及び親子関係改善												
(7) 事業概要	<p>パンビ親子教室は乳幼児健康診査の事後事業として「落ち着きがない」「言葉が遅い」「友達と遊べない」等の育児上の悩みや問題を持った親子に対し、保護者や友達と楽しく遊んだり、一緒に学習しながら、より良い親子関係をつくり安心して子育てができるよう援助していく教室です。週1回概ね1年間の通室期間で、1歳児クラスは5クラス(6、8、10、12、2月開室)、2歳児クラスは4クラス(4、6月開室)実施しています。また、平成29年度に新たに開室した高野台出張パンビ教室は、1・2歳児1クラス(12名定員・11月開室)、3歳児1クラス(15名定員・4月開室)があります。</p>													
(8) H28事業別予算コード	会計	01	款	03	項	02	目	10	大	08	中	01	小	01
(9) 事業費と財源の内訳	項目		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)		平成29年度 (2017年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		34,132	33,801	34,962	33,339	37,861							
	人件費	職員数	6.00	6.25	5.30	5.30	5.30							
		総額(B)	50,112	50,244	43,302	41,870	42,676							
	総事業費(A+B)		84,244	84,045	78,264	75,209	80,537							
	特定財源(C)		2,051	2,834	4,278	4,278	4,199							
	(内訳)	国	1,277	1,799	2,761	2,761	1,836							
		府	638	899	1,380	1,380	918							
		その他	136	136	137	137	1,445							
	市負担(D)		82,193	81,211	73,986	70,931	76,338							
	(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
		その他	0	0	137	0	0							
一般財源		82,193	81,211	73,849	70,931	76,338								
財源計(C+D)		84,244	84,045	78,264	75,209	80,537								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
	<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①											
②														
③														
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 総在籍児数(実数)	目標値	(単位:人)	267.00	270.00	260.00
			実績値	(単位:人)	283.00	260.00	
		達成度(%)		106.0	96.3		
	目標値の積算方法 1歳6か月児健診において事後指導が必要とされる人数(概ね出生数の6%) + 前年度からの継続人数(77人)	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	296.98	128.23		
			一般財源(単位:千円)	286.96	111.77		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
(2) 成果指標		①	指標内容 退出時に行った保護者へのアンケート調査結果(バンビ親子教室を利用することで育児の不安や苦勞が軽減されたと答えた人の割合)	目標値	(単位:)	80.00	80.00
	実績値			(単位:)	90.00	84.00	
	達成度(%)		112.5	105.0			
	目標値の積算方法 各年度80%	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	933.83	396.89		
			一般財源(単位:千円)	902.34	345.96		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
	一般財源(単位:千円)		0.00	0.00			
(3) が困難な場合	① 活動内容				目標		
	② 成果内容				達成状況		
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明	障がいの早期発見・早期療育の役割のみならず、養育環境の改善による児童虐待の予防、児童の健全育成にも大きな役割を果たしています。平成29年度に、高野台出張バンビ親子教室と、3歳児健康診査の事後指導事業として3歳児親子教室を開室しました。今後も利用ニーズや効果等を検証しながら、必要な時に必要な支援ができる体制の整備を検討していく必要があります。					

事務事業分析シート

所属名	こども発達支援センター	事業名	1歳6か月児健康診査事後指導事業	事業区分	その他
事務事業番号	01571				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	18	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 a. 活動指標や有効指標には、他市との比較も可能な、それぞれ別の定量的な指標設定をしている。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	20	②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 b. 迅速なサービス提供のための取組について検討している。(3点)	3	点
(3) 効率性 (20点)	16	③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	18	④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができませんか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
(5) 持続可能性 (20点)	14	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができませんか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
		評価点合計 (100点満点)	86	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))

所属名	こども発達支援センター	事務事業番号	01571
-----	-------------	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>退室時のアンケート等では入室することで、「子どもとの関わりが分かった」「これからの子育てに自信ができた」という保護者が多く、また、継続して療育の必要な児童を療育機関に繋ぎ、障がいの早期発見・早期療育の役割のみならず、児童虐待の予防や児童の健全育成にも大きな役割を果たしています。平成29年度には高野台出張バンビ親子教室と3歳児健康診査の事後指導としての3歳児親子教室を開室しましたが、乳児後期健診(10か月児)の事後指導や1歳児クラスの卒室後のフォロー等にも強いニーズがあり、検討が必要と考えています。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)